

## 大聖院: 遍照窟

遍照窟とは「広大な光の場所」という意味で、大師堂の真下に存在する地下室です。ここでの「広大な光」とは仏陀の輝きを言い表したもので、これに導かれて仏を信仰する全ての人々が世俗的な人生の暗闇を切り抜け、救いに至ることができると考えられています。この部屋は奉納者の名前が刻まれた数百個の銅製ランタンに天井を覆われており、そこから発せられる淡い光に包まれています。

遍照窟の主な特徴は室内の壁を覆い尽くす 88 体の像で、これらは四国遍路八十八箇所の本尊を意味しています。四国遍路は全長 1,200 キロメートルの旅で、踏破に数か月を要する場合があります。ここでは、その全行程を歩くことができない信徒が八十八箇所の巡拝全てを 1 つの場所で行うことが可能です。各仏像の前にある四角いタイルの下には、彫られている仏が祀られている寺院から持ってきた一袋の砂が収められています。この砂はその寺の境内を意味し、これを踏んだ巡礼者は実際の場所に参拝した人と同様のご利益を受けることができます。この部屋の中央は、わずかに大きな像による 2 本の列によって占められています。(入り口から見て) 左側の列は各像が十二支の動物の中の 1 体を表しており、一方で右側の 13 体は伝統的な仏式の葬式に関連する仏を表現しています。これら全ての像を部屋の一番前から見守っているのは 2 体の阿弥陀如来像です。